

研修報告書 No 35

研修施設：本山町立嶺北中央病院
いの町立国保長沢診療所
昭和大学藤が丘病院 山下万平研修医

私は 2012 年 12 月に嶺北中央病院で研修をさせていただきましたが、一般 50 床、療養 50 床の病院で CT・MRI があり、救急 24 時間対応や消化管内視鏡での治療も積極的に行っており地域拠点病院として機能していました。普段は横浜で研修をしており今まで地域医療という名目で研修を行ったことがなかったため他県、他施設との比較はできませんが、率直に設備が整った病院だと思いました。高知県は人口あたりの医師数が全国でもトップレベルの多さということを知っていたので、県としての地域医療・へき地医療への取り組みがしっかりしているのだと思いました。しかし一ヶ月の研修の中で嶺北中央病院から車で 1 時間半ほどの診療所や山道の先にある出張診療所や訪問医療、往診を経験し、地域医療を垣間見た気がしました。90 歳を超えた高齢者が一人で山道を徒歩か車かで通院し、それだけでもリスクがあり、ましてや体調を崩したときは通院できないのではないかと。また積雪でもあれば診療自体に無理が生じてしまう、など一般的ではありますが市街地では感じられない体験でした。反対に医師－患者との関係については、診察中の会話や診療後にお茶を飲むなど地域に根付いた関係を知ることができました。

救急医療に関して私自身は患者搬送を行う機会は無かったのですが、高知市内まで 40 分ほどかかる現状を知ると、心筋梗塞や脳卒中をはじめとして 1 分 1 秒を争うときにはどうしても時間がかかり、ドクターヘリに関しても夜間は使用できないといった欠点があります。他には産科に関して嶺北中央病院では常勤体制ではなく、週一回の外来のみ、また出産は市街地の病院で行うという現状でした。全国的に産科医が不足している状況ですが、その影響は地域ほど強く出ているように感じました。

一ヶ月の研修では入院患者の加療を主に、救急対応や外来見学、検査見学を行いました。患者数が多くはなかったのもそれぞれの症例に対してしっかり学びました。検査ではエコーや内視鏡など実際に手にとって行えたので満足いく研修でした。さらに入院患者は脳卒中などで長期入院されている方が多く、褥瘡管理や栄養管理についても実際に処置をしながら印象に残るものでした。また整形手術も執刀させていただき麻酔科医が不足している現状を知り、逆に麻酔科医がいなくてもできる手術手技を学びました。

今回の研修では実際の病院・診療所での診察はもちろん、上記のような地域医療の実際問題についてもわずかながら知ることができました。反対に自分に不足していると感じた点、さらに学べた点としては地域医療と介護、療養やケアマネジメントなど病院業務の裏方に関する点も深めておきたかったです。

一ヶ月という短期間でしたが、先生方を始めスタッフの方々のおかげですぐに病院にも慣れて有意義な研修ができたと思います。ありがとうございました。